

# Bird Research Annual Report 2013

バードリサーチ活動報告



NPO法人 バードリサーチ  
Japan Bird Research Association

# 森, 草原, 身近な場所の 鳥のモニタリング

家のまわりの身近な鳥の変化を見守る「ベランダバードウォッチ」、年による変化の大きい冬鳥の飛来状況を見守る「冬鳥ウォッチ」、ガビチョウやソウシチョウといった外来種や分布の変化が顕著な種をターゲットにした調査などを実施しています。また、日本の自然環境の変化をモニタリングする環境省の「モニタリングサイト1000」の調査に協力しています。

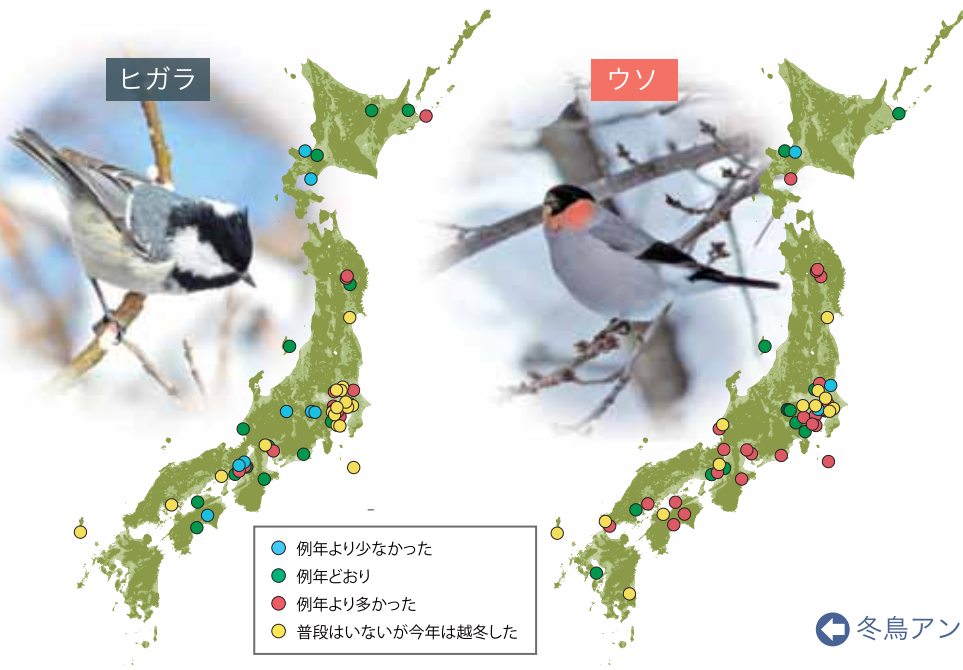


コルリ (Photo: 小堀脩男)

## 秋冬に低地へおりてきたヒガラとウソ

ヒガラ

ウソ



昨年はツグミが低地で少なかったことが「冬鳥アンケート」から分かりましたが、今年はその正反対で、北や標高の高い地域で少ない結果となりました。ヒガラやウソなどでも同様の傾向で、低標高地や温暖な地域で、多かった、もしくは普段は見かけないけれど越冬していた、という報告をいただきました。今年は木の実が凶作だったので、秋口から山を離れ、低地に降りてきたのかもしれない。

BRNews 10(4), 陸生鳥類調査情報5(1)

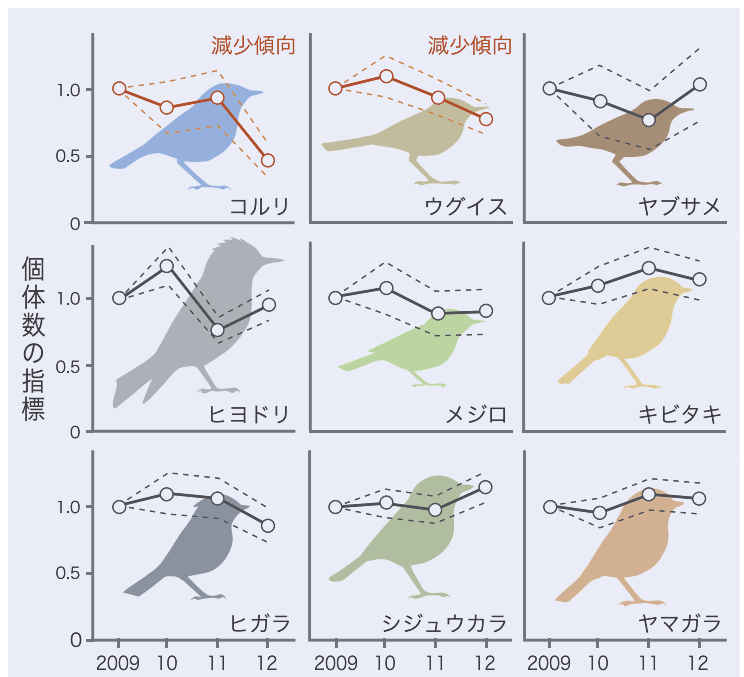
冬鳥アンケートによるヒガラとウソの越冬状況  
(Photo: 村田孝嗣)

## 藪を利用する鳥が減っている？

環境省のモニタリングサイト1000で、全国の森林にある調査サイトのうち、毎年調査が行われているコアサイトを用いて、2009年から4年間の各種の個体数変化を分析してみました。2009年の個体数を1として変化を見てみたところ、ササ藪を利用しているコルリとウグイスで、顕著な減少が認められました。近年、全国的にシカが増加していて、その食圧によりササ藪や低木層が減少していることと関係しているかもしれません。

BRNews 10 (7), 陸生鳥類調査情報4 (2)

森林サイトでの鳥たちの個体数の変化



# 水鳥のモニタリング

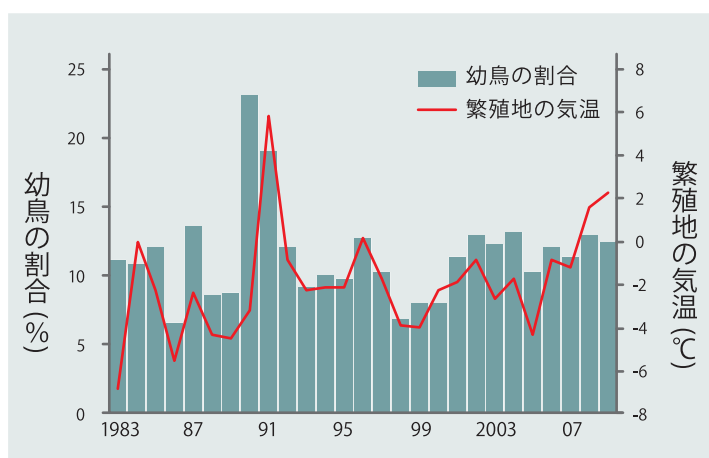
国内に渡来するガンカモ類を湖や沼・河川などの環境指標として、シギ・チドリ類を湿地の環境指標として、モニタリングをおこなっています。また、特定の種に注目した調査、環境に注目した調査、渡り鳥の初認や外来種の動向についての情報収集、カウントイベントなどを実施し、水鳥やその生息環境の調査を進めています。



オオハクチョウ (Photo: 新井清雄)

## ハクチョウモニタリング

ガンカモ類のモニタリング調査では、ハクチョウ類の成鳥と幼鳥を分けてカウントしています。日本で越冬するハクチョウの幼鳥の数を調べることで、広大で調査が難しいロシアでの繁殖成績をモニタリングすることができます。日本白鳥の会の記録を使わせていただいて、青森県のオオハクチョウの記録を分析したところ、北極圏にある繁殖地の気温が高い年に、日本に来る幼鳥の数が増えることが分かりました。近年のハクチョウ類の増加には気候の温暖化が影響しているのかもしれない。



↑ ハクチョウの幼鳥率と繁殖地の気温



## 生息地が消える？ 内陸の湿地を好むシギやチドリ

シギやチドリは水辺に生息する鳥ですが、沿岸の干潟を好む種のほかに、内陸の湿地を好む種があります。ツルシギ、コアオアシシギ、ヒバリシギなどがその代表で、本来は内陸にある自然湿地を利用していました。

しかし、湿地は水田に変わり、また水田も乾田化が進んでいます。更に農業政策によって、休耕田での転換作物の奨励により水鳥の利用できる場所が少なくなっています。「なつみずたんぼ」は、ムギ畑の休耕中に湛水を行い、水鳥の生息地を創出しようという取り組みです。水位を調整することによって様々な水鳥が利用することができます。

BRNews 10(2)



ツルシギ (Photo: 堀貴司)

# 生物季節のモニタリング

気候変動により、桜の開花時期が早くなったりするなど、生物季節の乱れが心配されています。そこで全国の皆さんの協力を得て、ウグイスやヒバリの初鳴き、夏鳥や冬鳥の渡来時期、ヤマガラやツバメの繁殖時期などを記録し続けて、気候変動の鳥たちへの影響を明らかにしています。

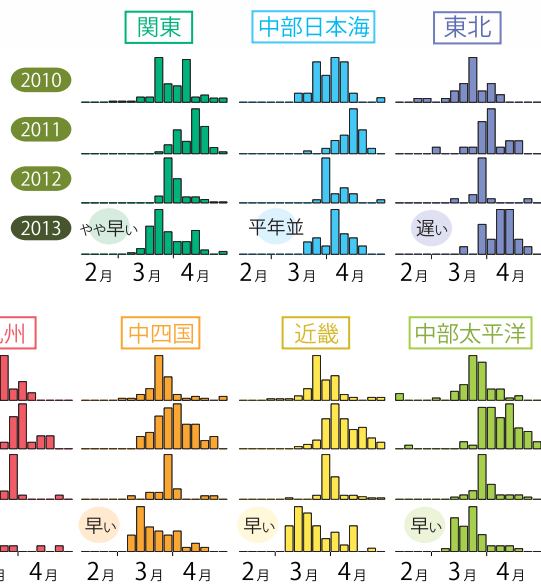
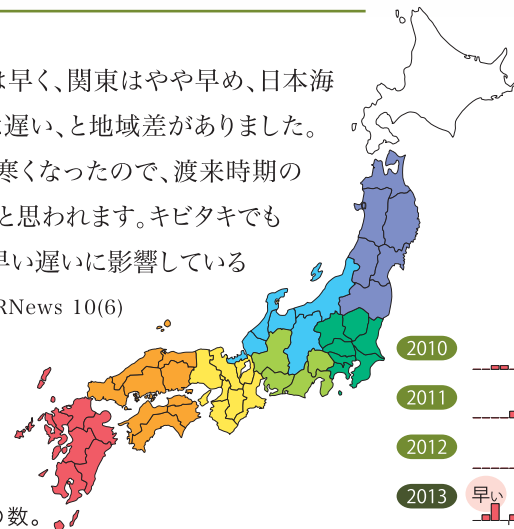
キビタキ (Photo: 長嶋宏之)

## 今年のツバメは南は早く、北は遅かった

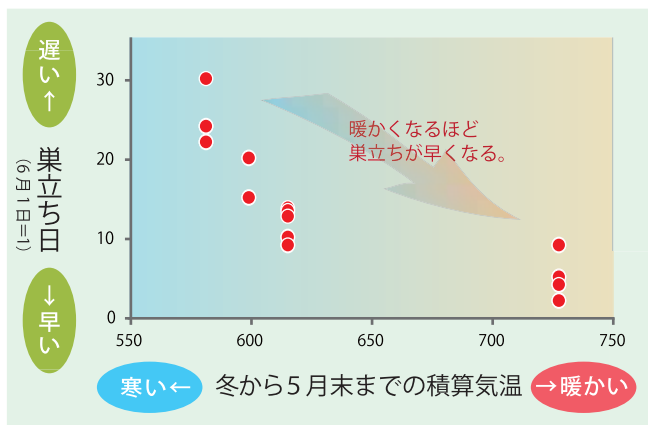
今年のツバメの渡来は南は早く、関東はやや早め、日本海側は平年並み、東北地方は遅い、と地域差がありました。今年は春先暖かく、その後寒くなったので、渡来時期の気温の変化が影響していると思われます。キビタキでも渡来時期の気温が渡来の早い遅いに影響している傾向がありました。

BRNews 10(6)

ツバメの過去4年の渡来時期  
縦軸は渡来を確認した地点の数。



## 留鳥のヤマガラは気候変動に対応できる？



渡来時期の温度が影響していた夏鳥に対して、留鳥のヤマガラでは、繁殖を始める春の気温よりも、冬からの積算気温が繁殖開始時期に影響していることが、繁殖時期の調査から見えてきました。積算気温は、植物の開花開葉時期や昆虫の発生時期に影響する気象要素です。このことは、留鳥のヤマガラは気候変動に対応して、時期をずらして繁殖することができることを示しているのかもしれませんが。

### ヤマガラの繁殖時期と積算気温との関係

## その他

その他にもシギ・チドリ類やガンカモ類、ミヤマガラス、ツグミやジョウビタキなどの飛来時期、ICレコーダーや森林のライブ音配信を使ったさえずりの活発な時期のモニタリングも行いました。



ヤマガラ (Photo: 小野安行)

# 鳥との共存

環境の改変により、絶滅したり急減した種が増えています。またその反面、一部の種は個体数が増加して、人間活動との軋轢が生じ、その解消が社会的に求められています。このような問題を軽減、解消し、人間と自然が共存できる社会を構築するためには、各生物種の分布や生態といった基礎的な情報を収集して現状を把握し、有効な対策を検討していく必要があります。

ツバメ (Photo: 宮本桂)

## 広域連携によるカワウの保護管理

昨年度は、近畿圏などの自治体からなる関西広域連合におけるカワウの管理の推進のため、「関西地域カワウ広域保護管理計画」の作成に協力し、府県を越えて広域に連携

するメリットを活かした具体的な管理計画案を提示しました。今年度は計画に従い、大阪府と兵庫県において、管理に向けた準備を進めています。



▲大阪府でまず最初に管理の対象とした市街地のコロニー



▲地域住民や市の職員とともに視察した時のようす。

## カワウの保護管理のための手引書を作成



環境省が発行するカワウの管理のための技術マニュアルは2004年に作られた後、しばらく改訂されていませんでした。その9年間にカワウの管理は大幅に進展したため、時代遅れになっていたマニュアルの改訂に昨年より取り組み、「特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン及び保護管理の手引き(カワウ編)」としてとりまとめました。この手引書を紹介するパンフレットの表紙絵は、計画的な管理が導く人とカワウと魚のより良い未来が感じられるものになりました。

BRNews 10(6), 10(11)

## つばめの駅プロジェクト

人通りの多い場所に巣作りするツバメにとって道の駅は人気の営巣場所ですが、糞が落ちることが迷惑がられて巣を落とされてしまうことがあります。ツバメと人の共存を進めるため、ワンタッチで組み立てられる段ボール糞受けの配布や、ツバメの営巣場所を誘導するための人工巣の設置実験を行いました。

BRNews 10(5)



◀ ツバメの糞受け

# みんなで楽しく鳥類学

バードリサーチは、全国の鳥の生態や生息状況に興味を持って「調べてみよう!」という人たちとのネットワークを作り、わくわくするような調査や研究をみんなで一緒にできる団体でいたいと考えています。全国的な調査体制を広げいくために、この1年間に行なった活動をご報告します。



## 体験型調査「みにクル」、研究集会や鳥学講座の開催

鳥の調査を体験していただく「みにクル」を、今年も狭山公園、宇都宮中央公園のほか、富士山において実施しました。例年通りツバメの研究例会・ねぐら入り観察会も開催しました。今年は昨年ラムサール条約湿地に登録された荒尾干潟で研究集会を開催することが

でき、約50名の方にご参加いただきました。また行徳野鳥観察舎友の会と共催で、オオミズナギドリの生態とジオロケータによる研究について鳥学講座を開催しました。

BRNews 10(5)



▲九州で初めて開催した研究集会のエキスカーション。荒尾干潟でシギ・チドリ類を観察する参加者。



▲富士山で実施した「みにクル」では、森林限界での調査後、自衛隊の演習地になっている高原でバードウォッチングを楽しみました。



▲鳥学講座では、ジオロケータを用いた研究の手順と解析方法について第一人者の山本 誉士氏に講義をしていただきました。



## 大好評のさえざりナビがバージョンアップ

昨年リリースした、鳴き声のタイプなどから鳥の種を検索できるアプリ「さえざりナビ」を全面的にバージョンアップしました。これまで iPhone や iPad にしか対応していませんでしたが、今回のバージョンアップにより、Android 携帯や自宅 PC でもお使いいただけるようになりました。さらに、目撃情報の投稿ができるようになり、自分の見た鳥を報告したり、みんなが見た鳥の情報を閲覧してバードウォッチングの参考にすることが可能になりました。またこれまでに投稿した種すべてと今年投稿した種が自動的に集計され、投稿記録がそのままライフリストとして利用できるようになりました。

BRNews 10(9)

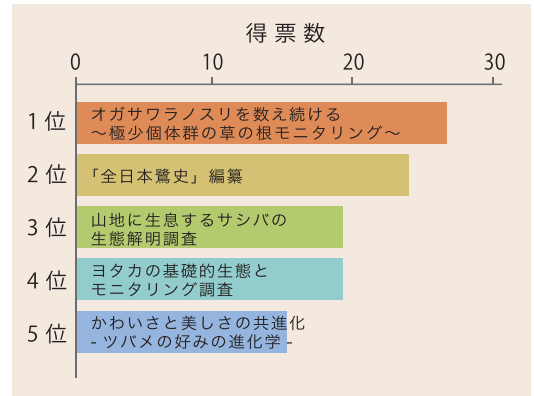


## バードリサーチ調査研究支援プロジェクト

みなさまから少しずつの寄付を募って、それをもとに鳥類の調査や研究を行なう方に支援を行ないました。集まった寄付額は62万5千円、これらを得票数で割り振り8件の支援先に贈呈しました。

また、昨年度の支援先の結果がまとめ、支援者の方々へ調査結果の報告をしました。イソヒヨドリが内陸に進出しているのは、営巣場所など生息に適した環境が内陸に存在しているからではないか、富士山にいるソウシチョウはスズタケを好み、まだ亜高山帯の針葉樹林では繁殖していないようだ、千葉県で越冬するセグロカモメはサハリンを北上してロシアの本土で繁殖しているのではないかなど、多くの成果が得られています。

BRNews 10(3)



今年度の支援先上位5件の得票結果



▲近年、内陸に進出しているイソヒヨドリ



▲ソウシチョウ(左)と、富士山に生息するソウシチョウが好むスズタケの環境(右)  
(Photo: 西教生)



▲ジオロケータとカラーリングを装着したセグロカモメ  
(Photo: 佐藤達夫)

## ニュースレターと研究誌の発行・書籍の出版

創立当初から続く会員向けニュースレターも、バードリサーチとともに今年で10周年を迎えます。研究誌「Bird Research」には今年8本の論文が掲載されました(2013年12月9日時点)。またバードリサーチで執筆・監修をおこなった「野鳥手帖2014」が山と溪谷社より

出版されました。「野鳥手帖2014」は、その月の観察ポイントを解説したマンスリー欄、季節に合ったコラムを掲載したウィークリー欄に加え、参加型調査「季節前線ウォッチ」の結果を掲載するなど、バードリサーチならではの手帳となっています。  
BRNews 10(9)



## 調査へのご協力ありがとうございました。

ここまで紹介したもの以外にも、夜行性のためにあまり調査されていないヨタカの生息状況を調べるアンケートを行ないました。

その結果、この鳥が北海道から九州まで全国に分布しており、おそらく若齢の森林を好んでいることがわかりました。



ヨタカ (Photo: 柴崎幸次)

また、メジロの繁殖時期を調べる調査や、河原の砂礫地で繁殖するチドリ調査などを実施し、成果をあげることができました。

これらの調査は、皆様に参加いただくことにはできなかつたものです。全調査をあわせ 1255 名の皆様にご協力いただきました。今年の活動へのご協力を感謝するとともに、今後ともよろしく願いいたします。

表紙写真：ミヤコドリ (Photo: 堀貴司)



## STAFF



左から時計回りに  
植田隆之、加藤ななえ、青山夕貴子、笠原里恵、守屋年史、高木憲太郎、神山和夫



黒沢令子



平野敏明



三上かつら

## 特定非営利活動法人 バードリサーチ

〒183-0034 府中市住吉町 1-29-9

Tel / Fax : 042-401-8661

E-mail : br@bird-research.jp

http://www.bird-research.jp

デザイン：いきものパレット

